

シリーズ 景観 85

『みんなで残したい松江の景観400選集』から
景観審議会が特にお薦めする景観

旧・トリヤのビル

No. 373

「昭和7年建築のビル。大陸貿易を商い^{あそび}としていた『山陰道産業』の建物。来待石を材料とするスクラッチタイル。壺を持つ少女、ぶどうを持つ少女などが刻まれています。」と推薦いただきました。

「山陰道産業株式会社」は明治40年、朝鮮半島などでの農業経営を目的として官民共同で設立された会社で、その社屋として昭和6年の末次大火の後に建てられたのがこのビルです。明治から戦前にかけて活躍した、島根の建築設計の草分け的な存在の建築家・成田光二郎の設計です。

その後、色々な所有者の移り変わりを経りましたが、石積み風の外壁や窓の装飾、来待石製のレリーフなど、特徴ある外観はほぼ当時と変わらず、昭和48年から営業していた洋品店「トリヤ」の名前を残して親しまれている、まちのランドマーク的存在です。

レリーフの題材は、当初の目的の農業にかかわるものではないかとも推測されていますが、何か出典があるのかなどは判明していません。謎解きにもチャレンジしながら松江の近代を伝える建物に親しんでみてはいかがでしょうか。

市は「住むひとが誇りと愛着を感じ、訪ねるひとの心に残る松江の景観づくり」を推進しています。



「みんなで残したい松江の景観400選集」は、市ホームページでご覧いただけます。

【問い合わせ】 都市政策課 ☎55-5387

松江の景観400選

検索